

氏名	岡 隆彦
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3232号
学位授与の日付	平成10年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Transient appearance of perisinusoidal chondroitin sulfate proteoglycans associated with enhanced expression of biglycan gene during D-galactosamine-induced acute liver injury in rats (Dガラクサミンによりラットの肝臓に惹起した急性肝障害において、biglycanの遺伝子の発現増幅とともに類洞に沿って一過性にみられたコンドロイチン硫酸プロテオグリカンの発現)
論文審査委員	教授 原田 実根 教授 横野 博史 教授 二宮 善文

学位論文内容の要旨

我々は、Dガラクサミンによりラットの肝臓に惹起した急性肝障害において、コンドロイチン硫酸プロテオグリカンの変化を検討した。コンドロイチナーゼABC処理により露出する糖鎖断端構造に対応するモノクローナル抗体(1B5,2B6,3B3)を用いコンドロイチン硫酸プロテオグリカンの免疫組織化学染色を行なった。biglycanはデルマタン硫酸/コンドロイチン硫酸プロテオグリカンでありコンドロイチン硫酸プロテオグリカンの構成分子種のひとつである。biglycanの遺伝子発現についてはPCR法とRNaseプロテクション・アッセイ法により検討した。免疫染色の結果、門脈域においては正常肝と障害肝ともに染色が認められたのに対し、小葉内ではDガラクトサミン投与後1日から4日にかけて一過性に類洞に沿って放射状あるいは斑状の染色が認められた。biglycanの遺伝子発現については1日から2日目に正常肝の4~5倍の増幅が見られた。よって急性肝障害において類洞に沿って発現するコンドロイチン硫酸プロテオグリカンの一つとしてbiglycanが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、Dガラクトサミン誘発ラット急性肝障害において、コンドロイチン硫酸プロテオグリカン(CSPG)の変化を免疫組織学的に、またCSPGの構成分子であるbiglycanの遺伝子発現を検討し、プロテオグリカンの一過性の増加が障害肝の再生における細胞外マトリックスの再構築に関与することを示唆する知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。